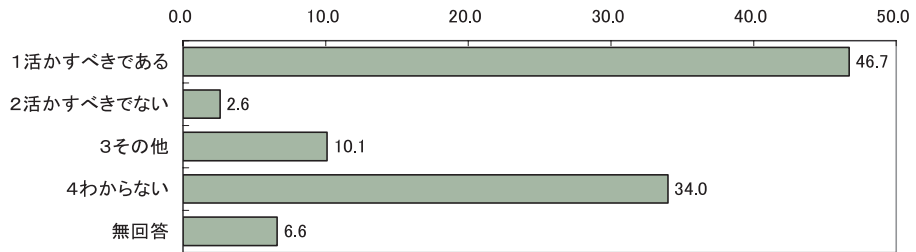


- 「講座・講演の情報」「行事や催し物情報」以外についても、「学習活動をしている団体・グループの情報」「取得したい資格や免許の情報」「講師や指導者の情報」「施設の利用情報」「ボランティア活動の情報」など多岐にわたる情報が求められています。生涯学習活動を行ううえで、これらの情報は必須のものであり、いつでも、どこでも、だれに対しても、様々なメディアで各種の情報を提供することで、市民の生涯学習活動を推進することができると考えられます。

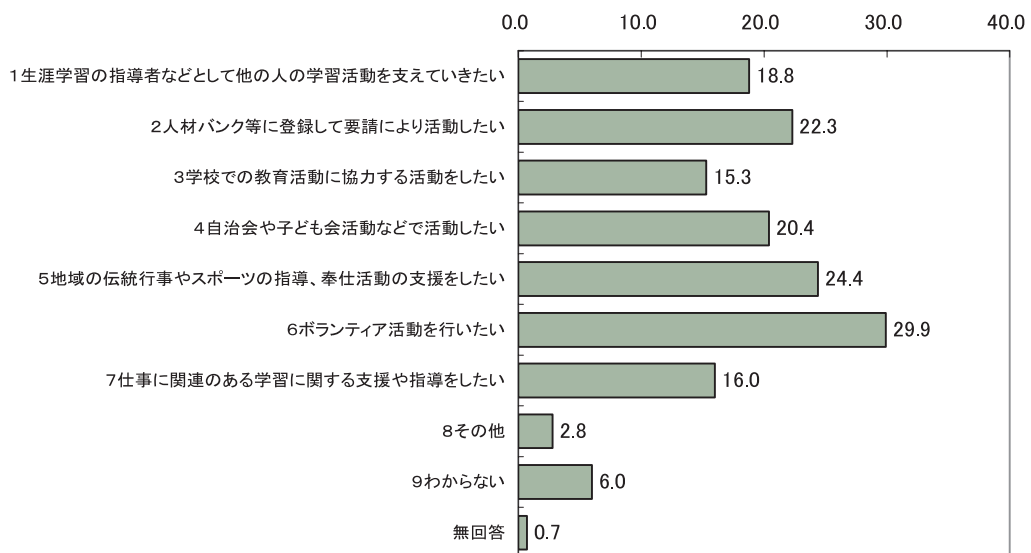
主な結果・分析③ — 「学習成果の活用」

生涯学習を通じて学んだ成果を地域社会に活かしていくことについて、どのように考えますか？



- 生涯学習を通じて学んだ成果を地域社会に活かしていくことについて、「活かすべきである」と回答した人の割合が5割程度（46.7%）と高くなっています。

どのような方法で学習した成果を地域社会に活かした活動をしたと考えますか？（複数選択）

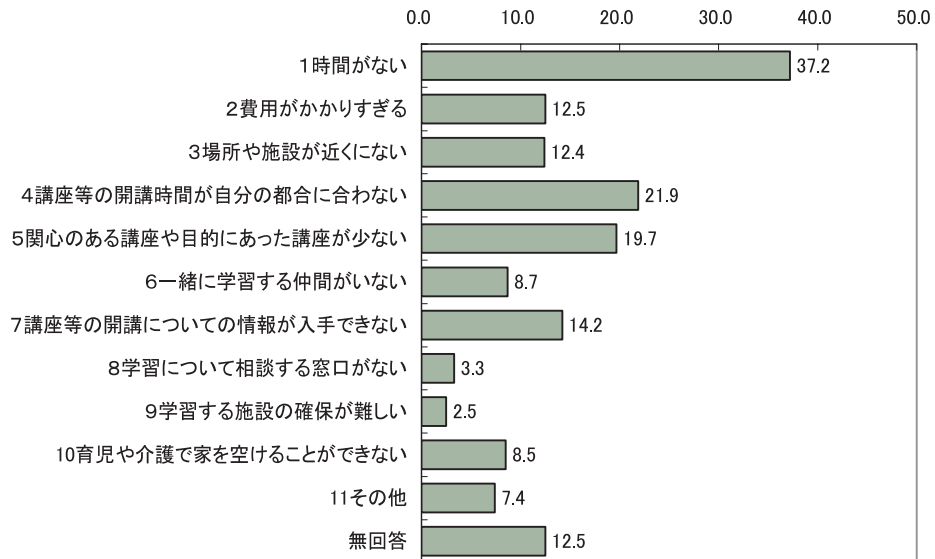


- 成果を地域社会に活かす方法について、「ボランティア活動を行いたい」（29.9%）、「地域の伝統行事やスポーツの指導、奉仕活動の支援をしたい」（24.4%）と回答した人の割合が高くなっています。地域活動に参加したいと思っている人は貴重な地域の財産であることから、そのような人がいろいろな場面で活躍できるよう支援策を検討する必要があります。

主な結果・分析④ — 「学習活動のさまたげとなる要因、学習活動をしらない要因」

学習活動をする際にさまたげとなる要因、または学習活動をしらない要因は何ですか？

(複数選択)



- 生涯学習を行うにあたっての支障等について、「時間がない」(37.2%)、「講座等の開講時間が自分の都合に合わない」(21.9%)と回答した人の割合が高くなっています。
- 「時間がない」「講座等の開講についての情報が入手できない」という回答に対応できるよう、講座の開講時間を夜間や土・日曜日など働いている人でも参加しやすい曜日・時間設定にすることが考えられます。継続して学習活動ができるためには、費用負担を軽減する処置や魅力ある講座を開講する、また生涯学習活動を行っていない人に対して、施設利用に関する情報が入手しやすいようにしたり、関心のある活動を紹介するなどの工夫が必要です。